

こころとからだに、
おいしいものを。



2017年8月30日
(2017年8月29日開催)

ダイドーグループホールディングス株式会社
2017年度(2018年1月期)第2四半期決算説明会 主な質疑応答(要約)

Q1. 各社がブランドの選択と集中を行い、強いブランドがさらに強化されていると思うが、DyDoのコーヒーカテゴリーにおけるポジショニングやシェアはどのように変化しているか。

A1. 当社は、最大の強みである「ダイドーブレンド」ブランドにこれまで継続して投資してきた結果、シェアを大きく変えるまでには至っていないが、販売数量は着実に伸ばしてきた。また、ブランド認知度や購入意向度などのKPIでも、上位2ブランドとは若干の差はあるものの、3番手グループには達してきているので、今後も継続して投資を行っていく。

Q2. 国内飲料事業の設備投資額が2017年度で66億円と記載されているが、目先3年間ではどのように推移するか。

A2. 今後も国内飲料事業の設備投資額は今年度と同水準で推移する見込み。

Q3. 今後、国内飲料事業の設備投資額が66億円で推移するのであれば、キャッシュ・フローは改善されていくという認識でよいか。

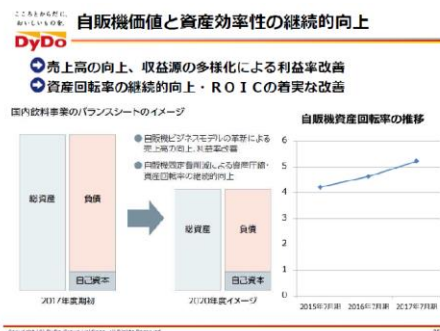
A3. そのようにお考えていただいても問題ない。キャッシュ・フローの改善には自販機の調達コスト低減のほか、トップラインをどの程度伸ばせるかがポイントである。

Q4. 国内飲料事業の減価償却費は、自販機の調達コスト低減によって2015年度の93億円から最終的にどの程度になることを見込んでいるか。

A4. 70億円を切る程度で、将来的には設備投資額とイーブンになる見込み。

Q5. 設備投資額が2017年度以降は一定の水準で推移し、減価償却費は低減されることで、将来のバランスシートは説明会資料p.35のように圧縮されるのか。

A5. 30億円程度圧縮できる見込み。



【注意事項】

本資料に記載の内容は、フェアディスクロージャの観点から、ダイドーグループホールディングス株式会社 2017年度(2018年1月期)第2四半期決算説明会の質疑をもとに、当社の文責により趣旨を要約(順序不同・補足・補正)したものであり、その情報の正確性・完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更される可能性があります。なお、本資料に記載されている当社グループの計画・将来の見通し・戦略などのうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の業績に関する見通しであり、これらは当社において現時点で入手可能な情報による当社経営陣の判断および仮定に基づいています。従って、実際の業績は、不確定要素や経済情勢その他リスク要因により、大きく異なる可能性があります。また、本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなさるようお願いいたします。